

## 論文内容の要旨

専攻名	多文化社会学 専攻	氏名	石松 佐織
題名	<p style="text-align: center;">長崎のフィルムツーリズムに関する調査研究 -新旧地域イメージの共存と長崎観光の課題-</p>		
<p>論文内容の要旨</p> <p>地域イメージとフィルムツーリズムがどのように連動し長崎観光に寄与しているのか。また、フィルムツーリズムを活用する上での長崎の地域観光にとっての問題点は何があるのだろうか。</p> <p>本研究では、長崎県で行われているフィルムツーリズムの事例を、アクターネットワーク論(ANT)を用いて考察する。これにより、長崎県観光におけるフィルムツーリズムの現状と課題を明らかにする。長崎の新しい観光の方法として ANT を枠組みに応用したフィルムツーリズムの可能性を考察する。人同士の関係性だけでなく、場所・モノ・取り組みの地域観光資源をネットワークの中に位置づけて考察するため、アクターネットワーク論(ANT)の概念を研究の枠組みに用いる。</p> <p>研究方法は、推進プロセスに関する実態調査とインタビュー調査である。推進プロセスに関する実態調査では、フィルムコンテンツ 7 作品を対象に行った。コンテンツツーリズムの推進プロセスに照らし合わせ、アクターネットワーク論の中でコンテンツがどのように位置づけられているのかに関する実態について、調査した。</p>			

氏 名	石松 佐織
<p>インタビュー調査では、フィルムコンテンツを作品の種類によって、「既存の長崎の地域イメージを強める役割がある作品」タイプと「必ずしも場所を長崎として特定しない作品」タイプのふたつに分類した。</p> <p>インタビュー調査で着目したポイントは3点ある。ひとつ目は、推進プロセスの実態把握、ふたつ目は、フィルムコンテンツを定着させるうえでの問題点、みつつ目は、長崎における地域観光で留意すべきポイントである。構成は以下の通りである。</p> <p>序章では、研究の背景、定義、目的と課題、研究方法や先行研究に関して述べている。先行研究としては、長崎県の観光の実態を述べたうえで、フィルムツーリズムとアクターネットワークに関する先行研究を整理した。</p> <p>第1章では、日本におけるフィルムツーリズムの概観を述べる。フィルムツーリズムの推進プロセスと効果、現状と課題、フィルムツーリズムの事例について、先行研究に基づいて述べる。先行研究によって、フィルムツーリズムを成功させるためには、制作側の課題と観光客に対する施策の課題とがあることが明らかになった。</p> <p>第2章では、フィルムツーリズムとフィルムコミッションの役割に関して述べる。第1節では日本におけるフィルムコミッションについて、フィルムコミッションの概要や活動内容、フィルムコミッションとフィルムツーリズムの関係について述べる。第2節では、長崎県フィルムコミッションの設立概要、活動概要に関して、インタビューや資料を元に提示する。</p>	

氏名	石松 佐織
<p>長崎県フィルムコミッションが行っている制作支援に関して、さるくの実施、ロケ地モデルコースの掲載、ロケ地マップの制作などが行われていることがインタビューから読み取れた。</p> <p>第3章では、長崎とフィルムツーリズムに関して述べる。第1節は、長崎における観光と地域住民の関わりとして、長崎で行われている施策であるさるくについて先行研究をもとに述べた。第2節では、長崎におけるフィルムツーリズムの推進プロセスとして、「フィルムツーリズムに関連する観光地づくりとイベント」、「長崎におけるフィルムツーリズムの事例」に関して、インタビューをもとに述べる。長崎のフィルムツーリズムの事例を7作品取り上げる。これらの事例から、長崎に「夜景のイメージ」を与えた要因は、「世界新三大夜景」に認定されたことや様々な夜景に関するイベントだということが明らかになった。また、さるくを実施することで、長崎の「歴史のイメージ」、「平和のイメージ」、「食のイメージ」の印象をさらに強めていることも明らかになった。</p> <p>第4章では、長崎におけるフィルムツーリズムの課題と持続可能性に関して考察する。アクターネットワーク論を第3章で提示したフィルムツーリズムの事例に当てはめて、2つのタイプに分けた。考察の結果、事例において、どのような流れで地域イメージが形成されているのかが明らかとなり、長崎におけるフィルムツーリズムの課題を示した。</p> <p>終章では、各章の考察結果を述べ、長崎の地域観光の課題についてまとめた。長崎の地域観光において、フィルムツーリズムを活用する際の課題として、ふたつが挙げられる。</p>	

氏 名

石松 佐織

ひとつ目は、ロケ地のイメージをどのようにして確立させるのか、である。ふたつ目は、  
アクターネットワーク論の新しいイメージづくりの実践である。

既存の地域イメージを持つフィルムツーリズムの事例だけでなく、長崎に潜在的に存在  
している魅力をどのようにして組み込んでいくかが、今後の長崎におけるフィルムツーリ  
ズムの課題であると考ええる。

## 論文内容の要旨

専攻名	多文化社会学 専攻	氏名	Saori Ishimatsu
題名	<p>Research and study on film tourism in Nagasaki</p> <p>-Coexistence of new and old regional images and challenges for Nagasaki tourism</p>		
<p>論文内容の要旨</p> <p>How does regional image and film tourism contribute to Nagasaki tourism? Also, what are the problems for Nagasaki's regional tourism in utilizing film tourism?</p> <p>This study examines couple cases of film tourism in Nagasaki Prefecture using Actor-Network Theory (ANT). Throughout this study, the status and issue of film tourism in Nagasaki Prefecture will be clarified. The possibility of film tourism in Nagasaki by applying ANT as a framework will be discussed.</p> <p>The research methods used in this survey are the following: Survey on the actual conditions of the promotion process and an interview survey. Seven film contents were targeted for the investigation of the actual conditions of the promotion process. ANT was investigated by comparing promotion processes of content tourism.</p> <p>There are two issues that need to be addressed when utilizing film tourism for regional tourism in Nagasaki. The first is how to establish the image of the location. The second is the practice of creating a new image of ANT.</p> <p>I predict that challenge for film tourism in Nagasaki in the future will be to</p>			

氏 名	Saori Ishimatsu
<p>incorporate not only examples of film tourism with existing regional images, but also the potential attractions that already exist in Nagasaki.</p>	